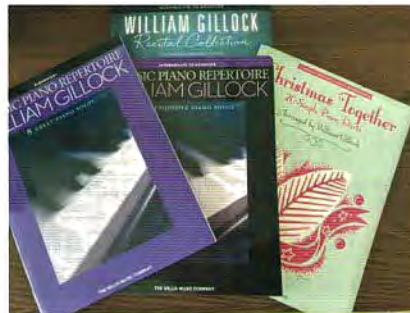


☆インタビュー☆ ギロック作品の出版を手掛けた ウィリス・ミュージック社 社長ケヴィン・クランリーさん



↑ケヴィン・クランリーさん



H: 12歳の若い少年は、どんな仕事をしていたのですか？

K: 世界各地の契約しているミュージックストアから受けた楽譜の注文と発送の整理です。祖父は私が小さい時に亡くなったので、一緒に仕事はできませんでしたが覚えています。

1899年にウィリスは創立され、当時の社長、ウィリス氏はたくさんのクラシック作品を出版しました。それと同時に新しい作曲家をサポートするために彼らの新鮮で楽しい作品も出版しました。

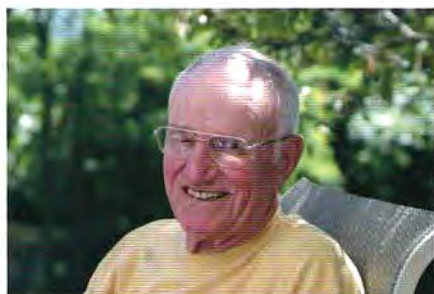
私の祖父、ジョン・クランリーが社長に就任した時、1930年代の前半にジョン・トンブソンと出会い出版を始めました。トンブソンはクラシック音楽の作曲家、アレンジャーとして知られていましたが、今日では世界で最も知られているピアノ教則本を展開させてきたことで知られています。私の祖父とトンブソンは一緒になって、従来のピアノ指導法を新しい指導法へと橋渡しをしてきたと信じています。そして1940年代後半に、ウィリスは全世界へドナ・マエ・バーナムを紹介し広めました。彼女の、Dozen a Day テクニック練習とStep by Step 教本は明らかに新しい指導法を取り入れていることがわかります。バーナムの教



↑お祖父様、ジョン・クランリーさん

ロリン・ミラー、エリック・バウムガートナー、スティーヴンス、シフォード、セトリフ、ハーセル、そして池田奈生子・・・そうそうたる顔触れの作曲家の作品を出版しています。ケヴィンは、私がギロックのことを調べる時、いつも快くサポートをしてくれました。絶版になっていたギロックの作品を蘇らせることができたのは、彼のおかげです。1999年にウィリス・ミュージックは創立100周年のお祝いをしました！社歴を読んで、ケヴィンとケヴィンのご家族の、音楽教育への深い情熱を感じました。

(ケヴィン・クランリーさん) K: 私は12歳の時から、学校が終わると会社へ行き仕事を学びました。1980年に大学を卒業してからフルタイムで働き始めました。祖父と父が残してくれたウィリスを引き継ぐことができ、とても幸運です。



↑お父様 ED・クランリーさん

(安田裕子) H: ウィリス・ミュージックは、トンブソン、バーナム、ギロック、グレンダ・オースティン、キャ

材は今日でも世界中でテクニックの指導に使われている人気教材です。ウィリスから出版されている作曲家たちは、全てクラシック音楽の教育を受けていますので、彼らの作品は教育的価値が高く、その上演奏しても楽しく、うまく生徒を導くことができます。ここ5年ほどはクラシック音楽も出版しています。それらは現代作曲家の作品とうまく関連付けられ、教材として使うようにできています。

H：学生時代の友人がピアノ教室の広告を作るとき、トンプソン・ピアノ教本で指導しますとうったら、たくさん生徒さんが来たと聞いたことがあります。ケヴィンのお祖父さまは音楽教育に関して鋭い勘を持っておられたのでしょうかね！

K：そうです、私の祖父は音楽教育のバイオニアなんです！彼はトンプソンだけでなく、バーナムとギロックも見つけました。ギロックについてですが、私が編集者から聞いたのは、一緒に仕事がやりやすく、すごく親切な人だったということです。

私はオハイオで育ち、1987年に妻のデビーと一緒にケンタッキーへ引っ越しました。といってもオハイオとケンタッキーはオハイオ川を境に隣同士に位置しています。だから私たちの引っ越しはほんの16キロ程度の移動でした。3人の子供たち、エリック、ケリー、そしてコリーンはケンタッキーで育ちました。今ではみんな独立して家を出ています。エリックは大手のスーパーマーケットのIT部門で働いています。ケリーは6歳を頭に4人の男の子がいます。コリーンにも一人男の子がいますが、彼女はウィリスで働いています。将来はウィリスの後を継いでくれそうです。



↑奥様のデビーさんとともに



↑お嬢さま、コリーンさん

H：5人のお孫さんがいらっしゃるのですね！そしてコリーンがウィリスを継いでいく。素敵なお家族ですね！ウィリスは楽譜の出版と、地域に根付いたミュージックストアも経営しています。シンシナティを訪問した時、メインストアへ連れて行ってもらいました。コンサートができるステージ、ピアノはもちろん、いろいろな種類の楽器が並び、楽譜が揃っており、ピアノ教師だったら一日中過ごせそうでした！2020年に私たちはコロナで大変な状況に陥りましたが、そんな緊急事態の中で日本ギロック協会のメンバーは「ワクワク・ピアノ・フェスティバル」を開催しました。小さい子どもからピアノの先生に至るまで、150組あまりのエントリーがあり大盛会でした。それぞれのピアニストがみんな違って楽しかったことと、現代の作曲家の作品がとても面白くて素晴らしいことを発見できました。協会メンバーの松田昌さん、後藤ミカさん、池田奈生子さんの作品を始め、ウィリスか

らグレンダやミラーなどギロック・ファミリーの作曲家の作品が数多くフェスティバルの曲目に取り上げられました。ケヴィンはこのような催しをどう思われますか？

K：昨年は大変な年でした！そのような状況の中でも、音楽があるところでは私たちに喜びと満足と幸せを運んでくれることを教えてくれた年でもあります。そんな中で「ワクワク・ピアノ・フェスティバル」は世界に音楽があることの素晴らしさを示してくれました。あなたや日本ギロック協会の皆さんと長年一緒に音楽に携わることができ、とても幸運だと思っています。日本ギロック協会は、フェスティバルでギロックの音楽を広めることから始まり、今日ではギロックの仲間たちの作品も幅広く紹介しています。きっとその協会メンバーたちもギロックと同じように素晴らしい考え方をを持ったミュージシャンだと思います。

H：さて、このコロナ禍で今後の音楽教育はどのようになるのか？ケヴィンはどのようにお考えでしょうか？

K：多くの先生がオンライン・レッスンに変えましたね！そして音楽教育を生徒たちに続けています。オンラインでのレッスンが不評ですが、その分対面レッスンの大切さを確認することができました。

ピアノの先生たちは生徒の表情をうまく読み取る才能に長けていますが、オンラインでは、うまく伝わらないことが多いと思っています。このままでは、将来、若い世代の人たちが対面でコミュニケーションをすることに戸惑うのではないかと心配しています。週に1回30分のレッスンでも、先生たちは生徒に対人関係の作り方に大きな貢献をしていると思います。

H：このコロナパンデミックをどのように乗り越えればいいのか、いいアイデアはありますか？

K：対面レッスンに代わる方法はないと思っています。多くの先生方も同じように思っているといいのですが。テクノロジーの進歩とともに、私はワクチンの開発に大きな期待をしています。そして世界中でそれを使うことが可能になることを願っています。レッスンについては、前からレッスンを受けている人にはオンライン用レッスンのやり方を工夫すればいいのですが、初心者や小さい子供達への教育はオンラインでは難しく限度があります。彼らは対面レッスンが必要です。

H：パンデミックでよくないことが多かった中で、私はモンテリオールにしながら、日本のギロックの仲間とオンラインで繋がりミーティングに参加することができました。そこで励まされたり、学んだりしました。

K：よく分かります。私はよくカンファレンスに参加し、そこで多くのピアノの先生たちと出会いますが、彼らは分かち合うことの大切さを知っている人たちだといつも感心させられます。お互いにためになるように交流する姿勢は私に大きな影響を与えてくれます。

H：ウィリスからは多くの楽譜が出版されていますが、これらの作曲家の作品を出版するに至るポイントは何でしょうか？

K：これは編集者に大半を任せています。ウィリスは、アメリカ、ヨーロッパ、日本、中国、オーストラリアに編集者がいます。もちろん作品の教育的価値は大切ですが、その中には作曲家の隠れた魅力が存在しているからだと信じています。音楽を学ぶ人たちが楽しみながら学べるような曲を作ること

に大きな情熱を燃やしていると、彼らの作品からは感じられます。

H：今日では、若者たちはオンラインにとっても強く、ネット上で多くのことをやってのけます。また、音楽や楽譜に至るまでオンラインで買えます。あるコンクールでも参加者がデジタル楽譜を使っているのを見ました。将来どうなるのでしょうか？出版社にとって紙の楽譜もデジタル楽譜も同じでしょうか？そしてまた、作曲家には影響を与えませんか？私は個人的に紙の楽譜が好きです。暗譜をする時も開かれた2ページに書かれたフレーズの位置で覚えています。練習するときでさえ、違う版を使うと戸惑ってしまうことさえあります。

K：テクノロジーは目まぐるしい速さで変わっていきます、楽譜出版業界も同じです。デジタル楽譜が始めた頃、読みづらい欠点などあったようですが、技術は進歩しており、進歩し続けると思います。私も個人的に紙の本が好きです。自分自身で本をもち、その本を開くと、とてもパーソナルなものを感じます。デジタルでは同じ様なフィリングを味わえません。しかし、デジタル楽譜の売り上げはどんどん伸びています。そしてプリント楽譜の勢いもとても強いですよ。

H：本はとてもパーソナルですね。楽譜では、先生や自分の書き込みを入れたり、本では大切なところや、感激を受けたところに線を引いたり、自分の世界が生まれます。プリントするシートミュージックも簡単に購入することができていいのですが、それらをまとめて一冊にすると、他の曲にも出会え、その関連性を見つけたり、何曲かで一つの世界が生まれたり、とても大切だと思っています。音楽のアルバムのように。ウィリスでも最近、曲のタイト

ルや、スタイルにそって本に編集されたのがよく出版されるようになりましたね！とてもいいアイデアだと思います。

K：もちろん、こういった側面は演奏する人たちの学習過程に大きな影響を与えていると思っています。また、タイトルに訳をつけることも学習に役立っているとおもいますよ。例えば、ミラーのピアノスポーツを訳すとき、どのように日本語に訳せば分かりやすいか悩んで、あなたは、たくさん質問してきましたね（笑）

H：楽譜と言えばギロックの「ピアノ・オール・ザ・ウェイ」は絵もなく古いスタイルなのですが、コードシステムを学びたい大人や、10代の生徒にはとてもいいアプローチで、レッスンでよく使いますし、時々私自身も読み返します。特にレベル2は役に立っています。これにはギロックの知恵が詰まっているように思います。現代では多くのイラストやカラフルな本が好まれますが、アメリカではどうでしょうか？

K：私も「ピアノ・オール・ザ・ウェイ」が好きですよ。ギロックの教育アイデアが詰まっていますから。ウィリスでは何種類かの教本を扱ってきました。オーソドックスな教育法に焦点を当てたトンプソンですが、今日でもとても人気のある教本です。そして近年では他の教本もいろいろ出版してきました。あなたが言うようにカラフルでたくさんのイラストが入っているものです。ギロックの教本もこの時期に出版されましたが私は他のどれより優れていると思っています。日本ではギロックはよく知られていますが、アメリカでもギロックの「ピアノ・オール・ザ・ウェイ」の信仰者がたくさんいますよ。

H: ケヴィンはギロックのどの曲が一番好きですか？

K: これは難しい質問だね！でも「雨の日のふんずい」かもしれない。この曲は特別なムードをかもし出してくれる。それからちょっと元気が必要なときは「ニューオリンズ・ジャズスタイル」かな。これを聴くと、とても元気が湧いてくる。

H: インタビューの締めくくりに、ギロックの思い出を教えてください。

K: ギロックの思い出はほんの少しです。1980年にウィリスで仕事をフルタイムで始めてから、出版部でなくミュージックストアで主に働いていました。だから私は彼の作品について直接連絡を取ることはありませんでした。でもある日、彼がシンシナティにあるウィリスのメインストアで彼の作品のワークショップをすることになりました。それで私が全て手配をしました。ギロックのことはいつも父からたくさん話を聞いていたので、彼に直接会えることは、私にとって一大事でした。だからほんの少しの出会いですが、彼から受けた印象はとても強く、なんて純粋で親切な人だろうと思いました。私はまだ20代の若造でしたが、彼は私をとっても大切な人として扱ってくれました。でもそれは私だけでなく、彼と直接会った人全員が同じ感激を味わっています。

彼の「出会った人すべてに与える影響」が一番印象に残っています。今日まで私は至る所で開かれるカンファレンスへ行きウィリスのブースを出しますが、ピアノの先生は誰もがギロックの作品の素晴らしさと好きな曲について話にきます。ギロックと実際にあった人は、彼が話したことを全て感激して話してくれます。なぜなら、ギロ

ックは出会った人、ひとりひとりを彼にとって特別な人であるように思わせたからです。彼は素晴らしい作曲家でありました。しかしそれより大切なことは、彼はこの上なく素晴らしい「人」でした。

私は今の仕事が大変好きです。私の人生を豊かに意味あるものにしてれています。もし今の仕事をしていなかったら、何かの方法で「自然」と向き合う仕事を選んでいたと思います。「自然」からいっぱいインスピレーションをもらっているからです。とてもスピリチュアルだと思っています。



小原孝の「ピアノよ歌え！音楽講座」(コンサート付き)もつとすてきにギロックを弾こう！

連日のニュース、コロナ禍で地下鉄に乗るのもちょっと恐いなあと思いつながら、昨年10月12日に小原孝さんのピアノが聴きたい！と大阪、梅田まで出掛けました。

「叙情小曲集」の講座を受けるのは今回で3回目。1991年に改訂されて、テンポが変わった事やriten.a tempo後から書き加えられた箇所はどう歌うか、丁寧な音色とは？繊細な表現の奏法や演奏するにあたって色々大切な事を教えて頂きました。オンライン受講の為に生配信もありましたので、ペダルを踏む様子も見れる様に足元にもカメラが配置されてました。叙情小曲集は1曲1曲は短いですが、題名がつい

ているので、中高生の生徒さん達とイメージやどう表現したい？などと話し、一人一人個性を引きだしたいなと思いながらレッスンしています。講座中からリラックスとリフレッシュ効果のある曲ばかりで、心が安らぎました。休憩後、ミニコンサート。感動で胸が熱くなり、わぁ～素敵な音、改めてピアノの音ってこんなに素晴らしいんだ、心が満たされて本当に幸せっと思いました。ギロック、そして小原さん、ありがとうございました。

(記 大阪支部/上野 恵子)



定例会でピアノの基本テクニックを見直す【大阪支部】

全調性で書かれた24曲を、通して演奏するチャレンジです。昨年12月には、フェニーチェ堺小ホールで、ファツィオリのフルコンを借りて、しかも、4本目のペダルも体験してみました。素晴らしいホールで、素晴らしいピアノの音色。ギロックの曲で、ピアノニッシモで速くフレーズなどでも、音質の変化なく、きれいな音で弾けます。皆、すご〜く満足感いっぱい時間でました。私は、ギロックのソロ曲をデュエットに、連弾曲をアンサンブルにアレンジして楽しんでいます。今年からは、定例会で、ピアノの基本テクニックを見直し、「発表会のための小曲集」に取り組んでいます。

ギロックが、細かい楽譜への表記をしているので、それを見てピアノの演奏を考える、聴く、伝えるイメージの豊かさなどとても勉強になります。コロナが、落ち着いたら、ギロックフェスティバルを、皆でワイワイ楽しく開催したいです。(記/野村啓子)



新年コンサート

【岡山支部】

岡山支部は1月28日、新年コンサートを無観客で岡山ルーテル教会で行いました。会場の教会は例年使っています。教会ならではの響きのもと、それぞれのメンバーがソロ曲10分程度で、4期の時代の曲を時代順に演奏しました。各自の選曲はそれぞれの個性があふれ、小品でも素敵な曲がいろいろあるなど改めて感じました。4期の時代の曲を弾き分けるといのは難しく、口でいくらレクチャーしても実際にはどう違うかを自分の生徒の前で実践できるようにしたい、そういった思いでの企画でした。

連弾曲は、キャサリンロリンさんの「くるみ割り人形」を全曲、そしてメンバー同士みんなと合わせようということで、発表会でも使えそうな連弾曲を選び演奏しました。誰が誰とどのパートを弾くかは、勉強のため全てくじで決めたので、このメンバーの組み合わせだったらセコンドとプリマ逆の方がいいよね～という発見もあり、とても面白く勉強にもなりました。

今回は、感染防止策に悩むことのないコンサートができたと思っています。今年も同じスタンスで和気あいあいと、レッスンでの悩みなども気軽に相談しながらの勉強会になればと思っています。(記/小林由紀子)



ギロ友通信でつながる

【仙台支部】

昨年11月より再開した定例会は、毎月から2ヶ月毎に回数を減らす開催が続いています。そのつど会場が異なり、皆が揃うことが難しいこともあります。そこで続けて同じ課題曲にし

て、「ギロ友通信」で欠席者にも当日の話題や雰囲気や伝わるようにしています。仙台支部内で定期的な送信される「ギロ友通信」は、次回の日時・場所・課題曲のお知らせが主な内容です。1～2年で交代し、担当者の当日の感想やアイデアで、共通認識できます。昨年、通常開催ができなくなってからは私からメンバーへ向けて、ステイホーム中に感じたこと…遠方の親戚知人に会えない寂しさ、エッセンシャルワーカーに就く家族の心配、再開時期の相談など何度か発信しました。この会報も「つながり」を実感できる大切なものです。ありがとうございます。

5月21日(金)イズミティ小ホールを会場に、2年ぶりのギロックコンサートを予定しています。

(記/小野寺朋子)



ワルツ (3拍子) の指導法

【堺支部】



堺支部の新年のスタートは堺のフェニーチェにて行われました。成人式の日と重なり入口では厳重な顔チェックや消毒等を経て、勉強会の部屋でも換気対策、時間短縮されて万全の対策のもと行われました。

今回のテーマは「ワルツについて3拍子の指導方法」、ギロックの曲で、今野万美さんに指導して頂きました。19世紀初めに宮廷で育まれた踊りの舞曲(ワルツ)は今の時代の子供達にはイメージしづらく表現しにくいものです。

そのワルツの優雅さや上品さを伴う弾みの拍感をお子たちの体の中に感じてもらう今野さんの具体的で分かりやすい指導ポイントを教えて頂きました。大変勉強になり、また新年からエネルギーを頂くことが出来ました。

(記/鶴田抄智子)



札幌支部と長崎支部

オンラインでの交流会

【札幌支部】&【長崎支部】



前回の便りに「札幌とつながってみませんか?」と書かせていただきましたところ、2月初旬に長崎支部からお電話を頂き、「リモート合同友の会 in 札幌&長崎支部」が実現しました。繋がった瞬間「おはようございます!」の一言で、まるでいつもお会いしている友だちのような気になりました。

「こどものためのアルバム」より「古い農民歌」を弾き合い、コメントし合い、風景や想い、コード進行、和音の転回等々、次々に話が弾み、あっという間の2時間でした。ギロックという作曲家がキーワード!一気に距離を近づけてくれました。長崎支部の皆さん楽しいひと時を有難うございました。そして何よりギロックの音楽に感謝!

(記/小川ひとみ)

長崎支部はコロナ自粛のため月1回リモートで定例会を開いていましたが、今回初めて札幌支部との交流会が実現しました。順番に弾き合って、曲の形式やコード分析、演奏、表現するため

のアイデアなどを意見交換し、改めて大切な事を学べた時間でした。

ギロック勉強会の発足時期や各地の名産品の話も交えてのあっという間の2時間、久々に楽しいひとときでした。音楽で繋がるっていいですね！

札幌の皆さんありがとうございました。またお会いしましょう！

(記/戸田恵子)



オンライン定例会で モチベーションの維持 【富山支部】

富山支部はオンラインでの定例会がすっかり定着しています。今年は全国ニュースにもなるほどの記録的な大雪に見舞われ、生活はもちろん、レッスンにも支障が出た富山でしたが、オンライン慣れしていたことで柔軟に対応出来たメンバーも多くいたようです。気の許せる仲間たちとのオンライン談義は、元気と刺激を与えてくれる大切な時間。コロナ禍でのモチベーション維持に大きく貢献してくれています。

(記/高野浩美)



ピリ辛な研究内容をご紹介します 【西宮支部】



昨年からコロナによる影響で、日常はもちろんのこと、ピアノレッスンや生徒たちを取り巻く環境は大きく変化し、揺れ動いています。しかし、西宮支部ではその変化に負けず、出来るこ

とからコツコツと、時にはメールで連絡を取り合って、ギロックの教材研究を続けています。実は、西宮の会はギロックを思う気持ちが熱すぎて(!) 作品に対して出てくる意見が辛口です。意見とも文句とも取れるピリ辛な研究内容を(汗)ぜひシェアしてみてください。

●叙情小曲集より「とんぼ」とんぼのイメージよりは、蜂や曲集後半に登場するはちどりのようなスピード感がある。パルムグレンの「とんぼ」が同じ調性。(パルムグレンのとんぼは透明性のある美しい響きが印象に残る。)

1 段目最後の8分休符を楽しむ余裕、2 段目右手の下降形のデクレッシェンドなど、見逃しやすいことも多い。

「月の光」ドビュッシーの月の光との対比は珍しくないが、調性の違いからやや違和感を感じることも・ドビュッシーの「映像第1集水の反映」の方が、雰囲気に近いような気もする。

「秋のスケッチ」演奏する時に、前のページ「月の光」Hdurから繋げると同主調の組み合わせで面白い。ブラームス交響曲第4番冒頭部分との類似性を紹介している版あり。(似てるけど一瞬!で、ブラームスはすぐ素晴らしい転調で曲は展開していく)「枯れ葉」のコード進行とも共通点が見受けられるところから、秋のスケッチはどちらかというポピュラー音楽の趣を感じる。●こどものためのアルバムより

「祭り」バロック時代の仮面舞踏会風な作品。(日本語タイトルは祭り、他に良い呼び名はなかったのだろうか。)3 段目2 小節目、4 小節目の2 分音符から8 分音符と、3 小節目、4 段目1 小節目の2 分音符から4 分音符の違いに気づかされ、演奏も大きく変化する(2 ページも同様)。自分の楽譜の読み込みの甘さを痛感。「サラバンド」ヘンデルのサラバンド、フラン

ス組曲のサラバンド、シルコットのサラバンド、もともとスペインのゆったりと踊る舞曲で、装飾音符や符点のリズムがお洒落なのに、ギロックのサラバンドは装飾が少なくどう表現してよいのか難しい。2 小節目の16 分音符は重みを与えてみる、また、2 ページ目2 段目2 小節目のロールはたっぷり歌わせるなどの工夫が必要。

「エチュード」あまり弾いたことがなく、レッスンで使ったこともなく、初見で弾こうとするとかなり難しく、という声が多い。3 度のエチュードという認識しか持てなかったところ、日本語タイトルはエチュードだが、英語のタイトルはホ短調のためのエチュード! そう思うとこの曲が理解しやすくなってきた。カバレフスキーの香りがする。気になった点は、4 段目1 小節目左手のF 音、Eis にした方がきちんとした3 度になり、ミスタッチも防げると思う。2 ページ目下の段2 小節目左手がなぜこうなるのかよくわからないのは私たちだけ(^_^)?

「ワルツエチュード」全音の解説には『「ロマンチックスタイルによる」と標示されているように、この曲は明らかにショパンのワルツがヒントに・・・』と、書かれているが、これはどちらかというショパンではなくラフマニノフじゃないかな? という意見も出され、個人的にもソラシラソラシラソラ~の勢いが2 台ピアノのための組曲「ワルツ」に似ていると思い、あらためて、ラフマニノフの楽譜を持参し、youtube 音源を聴き、皆で検証しました。冒頭から中間部への転調、ヘミオラの動きなど、ギロックのワルツエチュードはラフマニノフのワルツに全てがつまっていると言ってもよいほど、納得を通り越して感動しました

(笑)(T_T) (記/前田陽子)

MASA先生とHillockのチャットdeギロック！第7回



～「リオのカーニバル」～



Hillockこと安田裕子（以下H）：マサ先生、お元気ですか？緊急事態宣言が出たりコロナの感染者が増えたり、ちょっと気持ちがふさがちです。今回はサンバのリズムによって元気になりたいと思い、発表会でもよく耳にする作品「リオのカーニバル」を選んでみました。「ピアノ・ピース・コレクション1」にソロ演奏用と、2台のピアノ用セコンドピアノの楽譜が収められています。マサ先生はこの曲好きですか？



MASAこと松田昌（以下M）：安田先生、ありがとうございます。おかげさまで、とても元気にしています。チャットdeギロックを皆さんがお読みになる頃には、コロナもかなり収束に向かってることを期待しています。

「リオのカーニバル」、とても面白い曲で大好きです。去年の6月でしたか、協会30周年の会のゲスト演奏で、ピアノ2台で吹く予定にしていました。イベントがなくなってしまいとても残念でした。



H：この曲はト長調で書かれていますが、使われているコードは2種類なのですね！IとV。すごいなーと思ってしまいました。



M：なるほど・・・そうですね～！コードネームで言うと、D7→Gというドミナントとトニックの繰り返しというシンプルな要素で作られています。そこから色々なことを考えます。1つは、D7→Gの2小節がワンセットになっているリズムの流れがあるということ。一般的にラテンの曲を2小節ひとまとまりで感じることは、リズムのとらえ方の基本だと思います。2つ目はコードが単純な分、リズムの要素が大きいということ。そして3つ目は、D7のベースラインは第5音の「ラ」から根音の「レ」に進む「ラーレ」となっていますが、これは「Am7-D7」といういわゆる「トゥーファイブ」にすることも出来て、そこにもリズムが感じられるということです。



H：サンバとって楽譜通りに弾いては何か物足りない。先生、何か調味料はありませんか？サンバのリズムは16ビートでリズムを感じると聞きましたが、本当です

か？リズムの感じ方はどのように教えられるですか？ギロックの伴奏は4分音符と二つの8分音符、付点8分と16分の付点のリズムと8分休符と8分音符。この2種類が使われています。



M：う～ん・・・お答えするのは難しいですね～！（笑）1つは、サンバといっても色々あって、例えば土俗的なサンバと洗練されたジャズに近いサンバでは大きく違いがあるということ。もう一つは、文章では説明するのが難しい、ということです。頑張ってみます（笑）。

これからの話は、間違っているところがあるかもしれませんが・・・ナポレオンがポルトガルを攻めたときに、ポルトガル国王はブラジルに逃げたらしいです。そのときに音楽家や料理人も一緒にブラジルに行った。当時ヨーロッパで流行っていた「ブンチャッ」「ブンチャッ」というポルカのリズムも一緒にブラジルに・・・そして、黒人奴隷によってアフリカからブラジルにもたらされたシンコペーションの強い3連符のリズムと「ポルカ」のドラマチックな融合が起こり、「サンバ」というリズムが生まれたと思っています。

「ショーロ」という音楽をご存知ですか？今でもリオデジャネイロなどの公園では、日曜日に「ショーロ」の大セッションがあります。「ショーロ」は「ポルカ」から「サンバ」に変化していく過程を表すブラジル音楽のジャンルと言えます。色々なリズムがあって、大雑把に言うと時代が進むに従って、「ポルカ」→「マシーシ」→「サンバ」という歴史があると行って良いかも知れません。サンバに近づくほど、リズムはアクセントが強調され、シンコペーションが多くなります。「」を1拍として歌ってみると（ここに書いたのは1小節です。2小節がワンセットですから×2で歌ってみてください。）ポルカは「ブンチャッ」「ブンチャッ」×2、マシーシは「ドンスタ」「ウッカッ」×2、サンバは「チャクチカ」「ドゥグルグ」×2のような感じ。体を動かしながら、何度も歌ってみるとなんか分かってきます。「ショーロ リズム」でググると<https://beats-up.academy.jp/blog/choro/>のサイトにとても詳しく説明されています。皆さんもぜひご覧ください。そういう見方から「リオのカーニバル」に戻りますと・・・左手で作出すリズムは最初の部分は「ポルカ」に近く、また中間部は「マシーシ」に近いと言えます。もちろんメロディーは、「ポルカ」よりもシン

コペーションしていますが。

「サンバ」のフィーリングを出すために必要なことは、いくつかあると思います。1つ目は、サンバの基本の楽器である「スルド」の基本リズム、「トゥッカ」「ド〜ン」×2をイメージすることです。2拍目の「ド〜ン」にアクセントがあります。その観点からいくと、最初の左手は2拍目の「レ」に、中間部の左手は1拍目の最後の16分音符にアクセントをつけるのがいいと思います。2つ目に大切なことは、右手。メロディーを2小節単位で感じ、僕だったら2小節目にある2つの「レ」の音にアクセントをつけ、少し粘ったリズムで弾きたいです。3つ目、これが一番大切ですが、メロディーを歌いながら、踊ることだと思います。「サンバ」は「弾く音楽」ではなく、「踊る音楽」であること、ステップを踏みながら体で感じると新しい世界が開けます。



H: 「踊る音楽」とってもよくわかります。ギロックは「音楽にはダンスビートを感じないといけない」と言っていますが、まさにポイントをついていますね！中止になってしまいましたが、協会30周年の会のゲスト演奏で予定してくださっていたとのことで、ぜひ新たな機会でマサ先生のピアノでこの曲を聴いてみたいです！ 2台のピアノで演奏されたら豪華でしょうね！とっても楽しみです。



M: わあ〜！そんな機会があるといいですね〜！パーカッションも入れて、みんなで踊りたいです。